



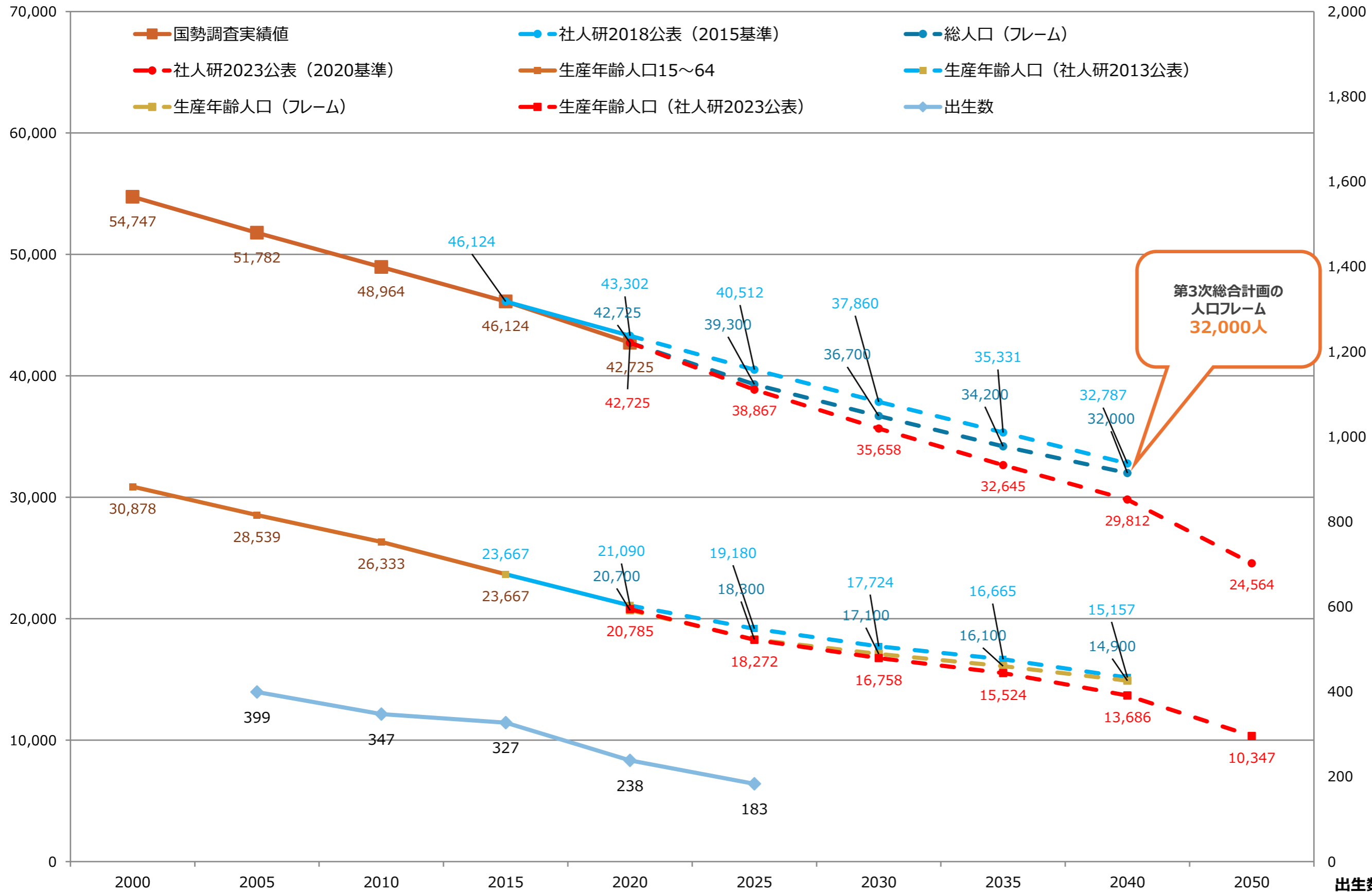
# 真庭市第5次男女共同参画基本計画 (あいプラン・まにわ)

## 資料

# 目次 ～大きなかぶの物語に例えた背景と今後の取組～

- **計画の趣旨** 計画書P.2 … P.3～  
【背景】
  - ・ 真庭市の課題：少子化・人口減少の進展
  
- **現状と課題** 計画書P.3・P.4 … P.8～  
【かぶ（だれもが自分らしく生きられる地域の象徴）が抜けない理由を探る】
  - ・ インタビューの調査対象
  - ・ インタビューの概要
  - ・ 男女共同参画の様々な課題
  - ・ 真庭の潜在的な魅力、活力
  
- **基本目標と目指す姿** 計画書P.5・P6 … P.21～  
【インタビュー調査から得られた真庭の「かぶ」】
  - ・ 真庭の「かぶ」：男女共同参画の目指す姿
  
- **重点施策** 計画書P7・P8 … P.23～
  - ・ 【仲間】人・つながり・協働のしくみ、【土】意識・文化・考え・慣習、  
【石】社会の制度・構造・環境
  
- **推進体制 評価と見直し** 計画書P.9・P10 … P.26～
  - ・ 推進体制、評価と見直し、成果指標
  
- **令和6年度市民意識調査結果（抜粋）** … P.29～
- **ワークショップ、啓発イベント「おおきなかぶ」資料** … P.34～

# 【背景】 真庭市の課題：少子化・人口減少の状況



2015 (H27) 年  
国勢調査  
46,124人

2020 (R2) 年  
国勢調査  
42,725人

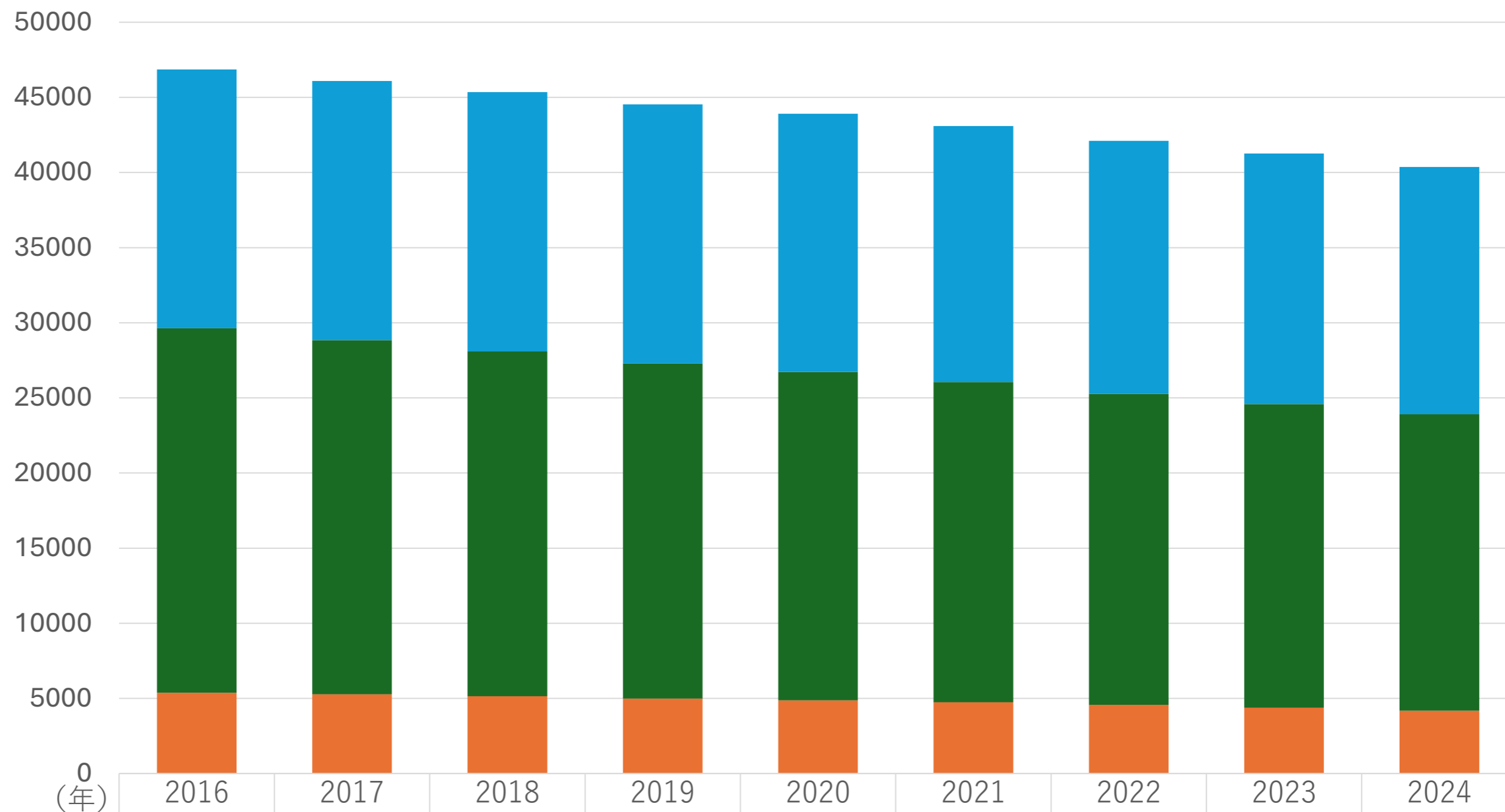
第3次総合計画の  
人口フレーム  
32,000人

【参考】  
令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート（真庭市の分析結果）

- ・若年女性人口減少率 51.9%（2020年 →2050年、移動想定）
- ・若年女性人口減少率 12.7%（2020年 →2050年、封鎖人口）

※封鎖人口：出生と死亡のみを考慮して推計した人口  
※分析対象期間：今回（2020年 →2050年）、前回（2010年 →2040年）

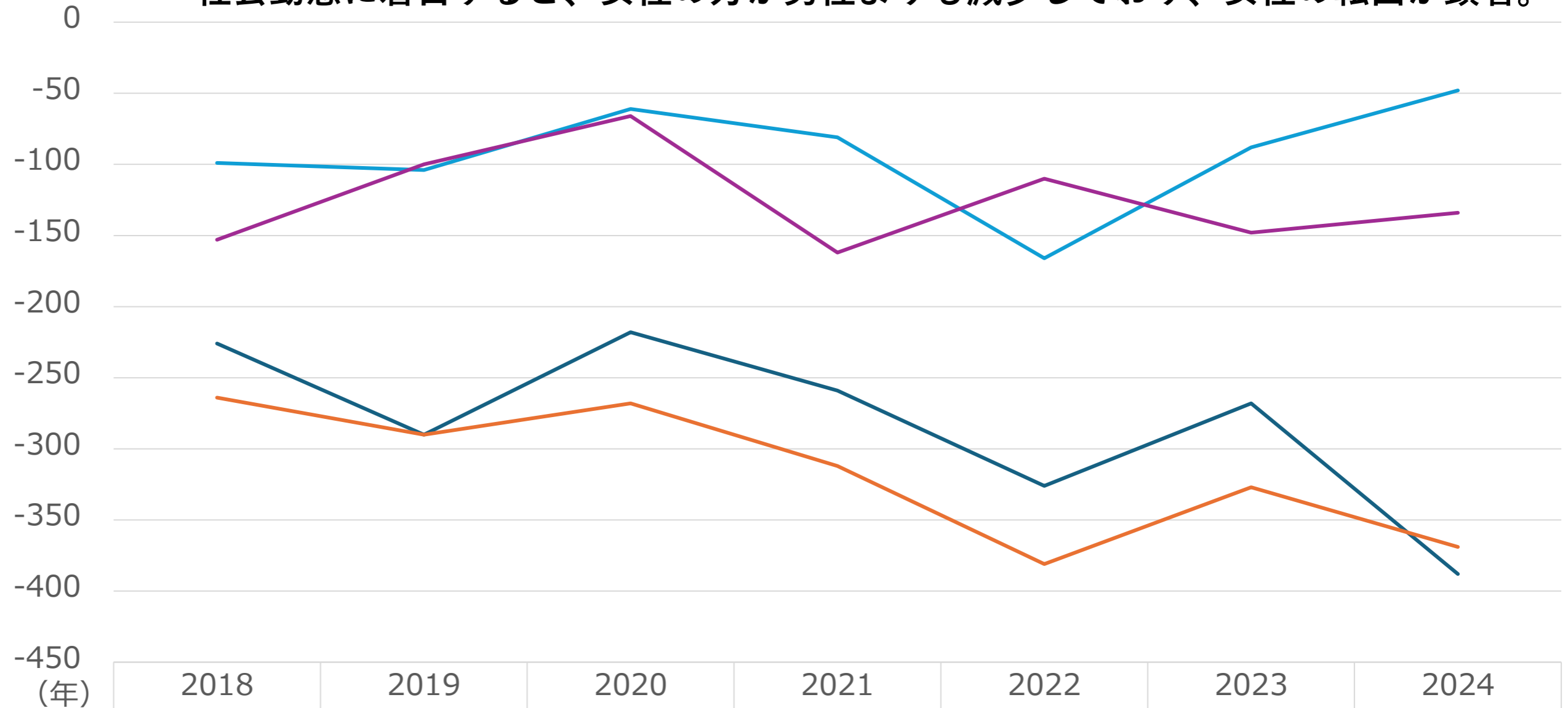
# 人口及び労働力（住民基本台帳） 生産年齢人口（15歳～64歳の人口）減少が顕著



■ 65歳～ 人口(人)	17216	17244	17259	17235	17186	17043	16836	16674	16449
■ 15～64歳 人口(人)	24261	23578	22944	22319	21854	21308	20697	20202	19728
■ 0～14歳 人口(人)	5377	5270	5146	4985	4875	4743	4569	4384	4185

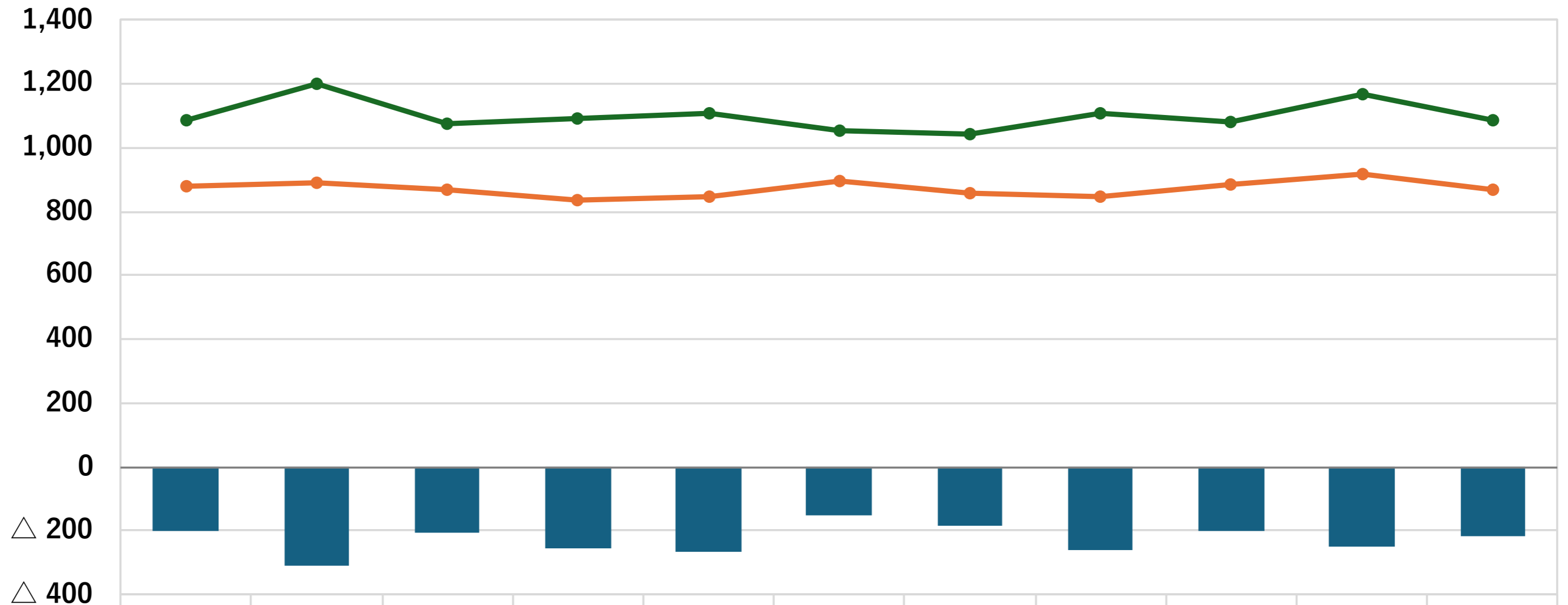
# 人口動態差引増減 住民基本台帳

社会動態に着目すると、女性の方が男性よりも減少しており、女性の転出が顕著。



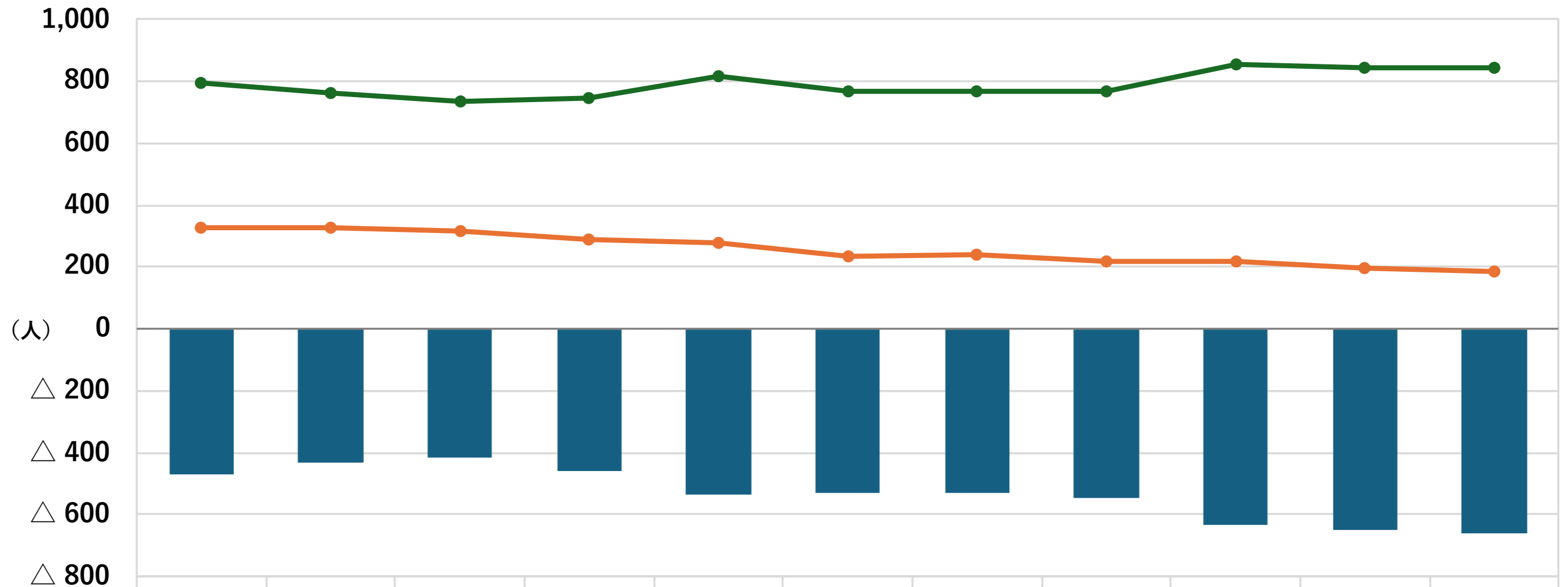
(年)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
—自然動態_男_合計	-226	-290	-218	-259	-326	-268	-388
—自然動態_女_合計	-264	-290	-268	-312	-381	-327	-369
—社会動態_男_合計	-99	-104	-61	-81	-166	-88	-48
—社会動態_女_合計	-153	-100	-66	-162	-110	-148	-134

## 転入・転出者数の推移



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
■ 転入超過数	△ 203	△ 308	△ 207	△ 253	△ 264	△ 154	△ 183	△ 261	△ 200	△ 248	△ 219
● 転入者数	882	892	871	837	847	898	860	845	883	920	868
● 転出者数	1,085	1,200	1,078	1,090	1,111	1,052	1,043	1,106	1,083	1,168	1,087

# 出生数・死亡数の推移



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
■ 自然増減	△ 470	△ 435	△ 418	△ 458	△ 537	△ 531	△ 532	△ 549	△ 634	△ 648	△ 663
● 出生数	327	327	317	288	279	236	238	221	220	194	183
● 死亡数	797	762	735	746	816	767	770	770	854	842	846

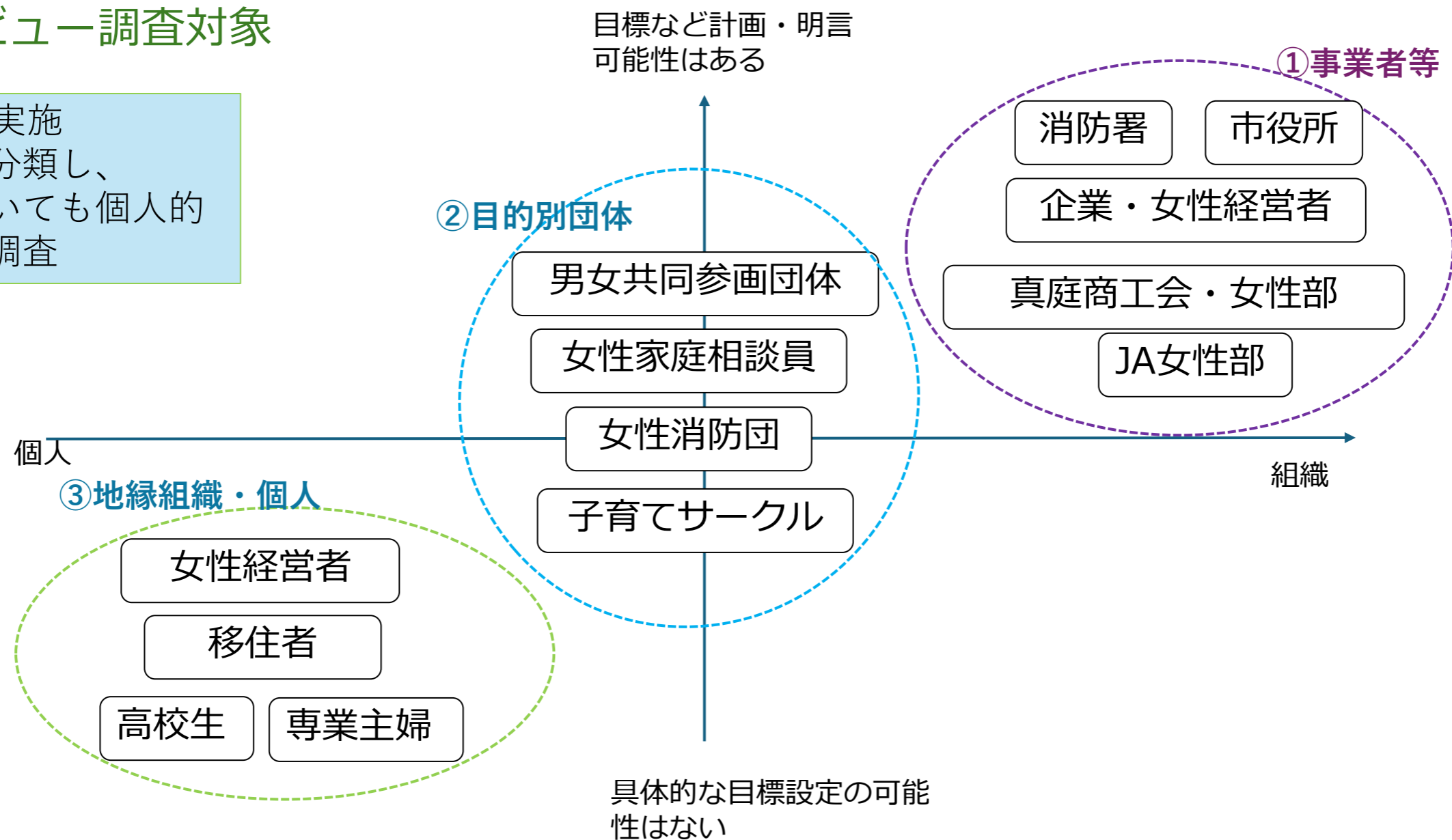
# 現状と課題

【かぶ（だれもが自分らしく生きられる地域の象徴）が抜けない理由を探る】

真庭市第5次男女共同参画基本計画に向けて、真庭市の課題を、国自治体等資料情報からの分析、及びインタビュー調査によるナラティブな言説の分析により明らかにすることを目的としました。

## インタビュー調査対象

40件60人実施  
①②③に分類し、  
①②についても個人的な意識を調査



# インタビュー概要

## ◆具体的なインタビュー対象者 60人

10歳代：8人、20歳代：3人、30歳代：9人、40歳代：12人、50歳代：14人、60歳代：10人、70歳代：4人

## ◆実施時期（R7.7.30～R7.9.19）

7/30… 個人インタビュー：1人

8/1～8/10 … 個人インタビュー：4人 グループインタビュー：2件（5人）

8/11～8/20… 個人インタビュー：13人

8/20～8/31… 個人インタビュー：9人 グループインタビュー：7件（17人）

9/1～9/19 … 個人インタビュー：4人 グループインタビュー：：1件（7人）

## ◆インタビュー形式

個人インタビュー

グループインタビュー

1時間半から2時間

対面インタビュー、またはオンラインインタビュー（くらし安全課立ち合い参加）

## ◆インタビューイー（インタビュー実施者）

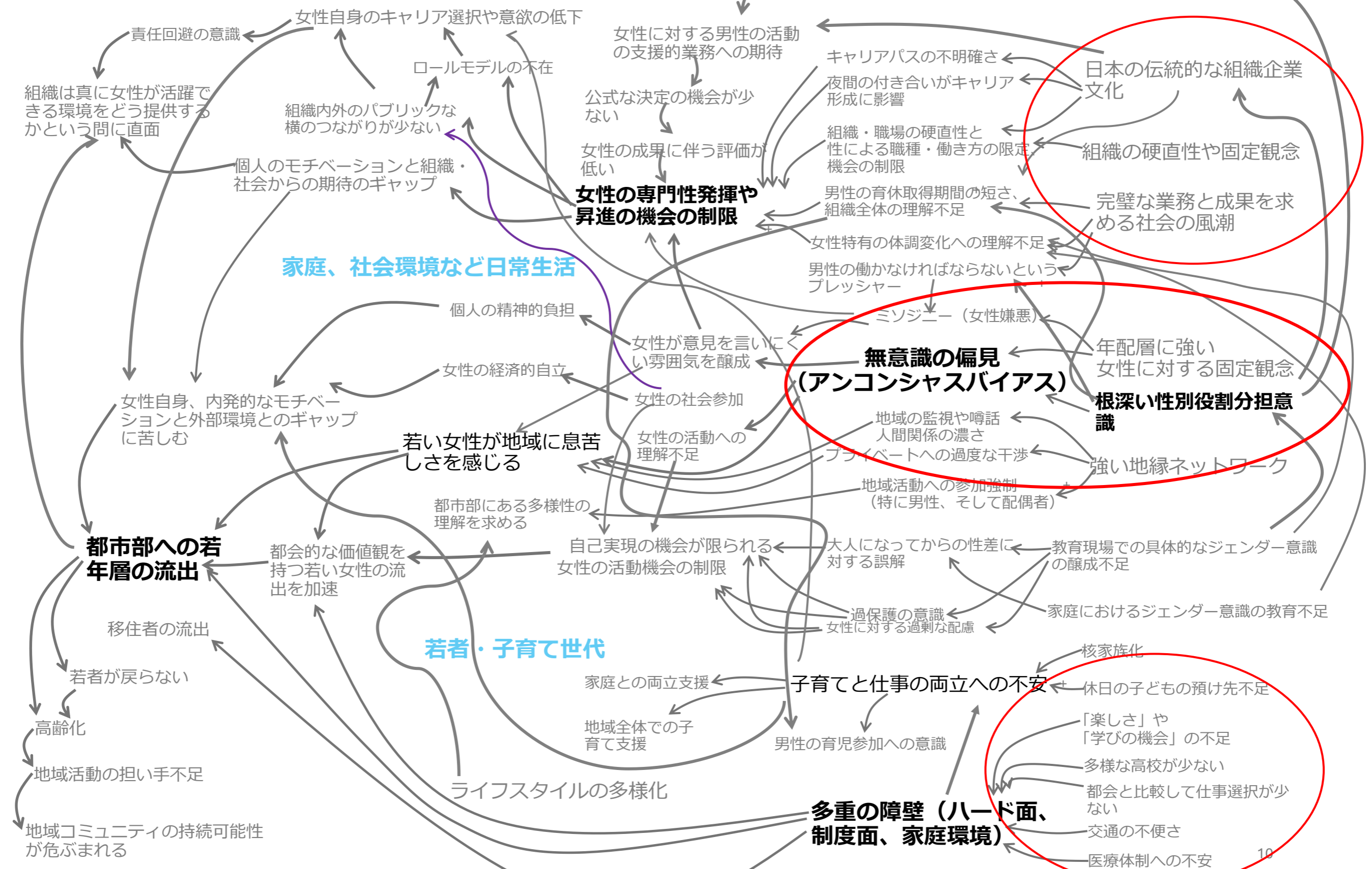
株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング

真庭市くらし安全課

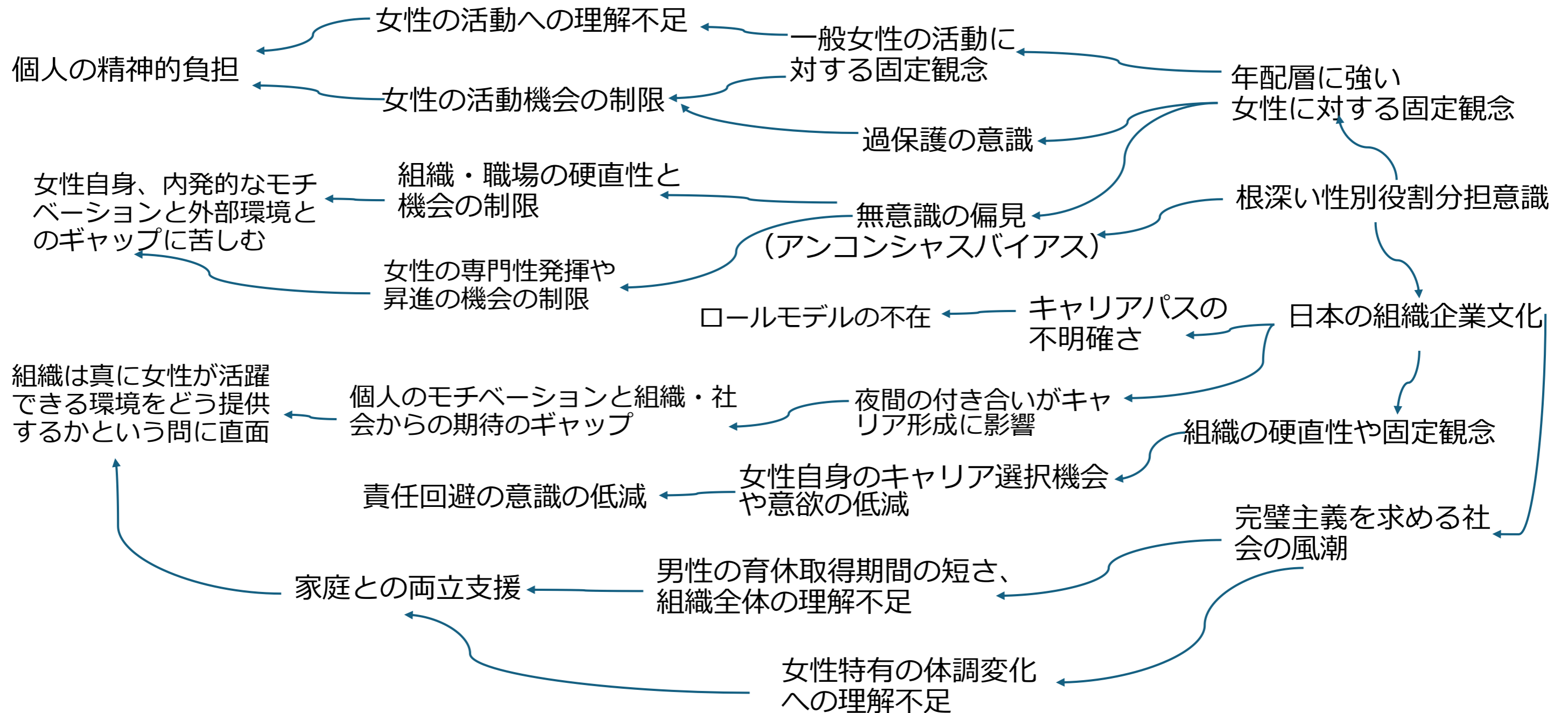
# 課題間のつながり（因果関係）

インタビューから、課題を抽出し、その因果関係のつながりを図示しました。

## 企業など組織

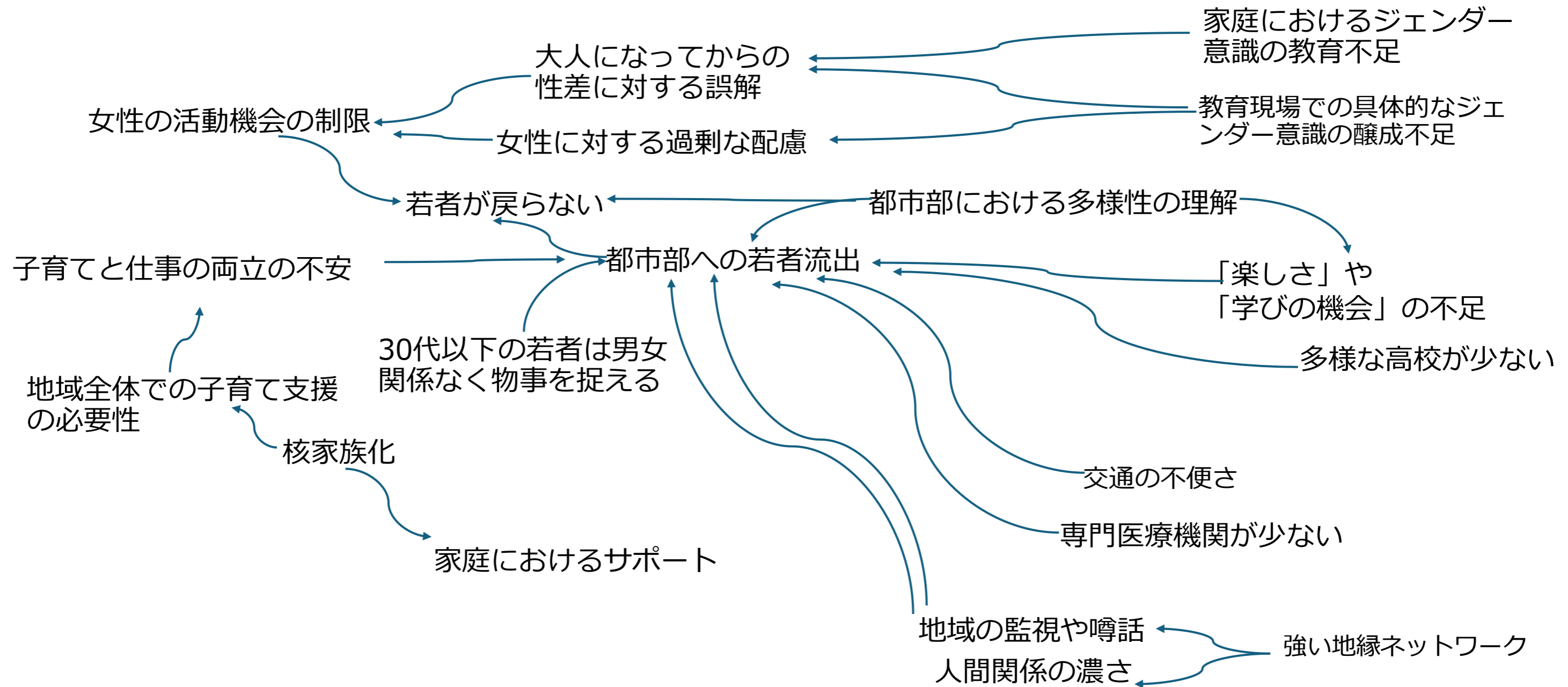


# 課題間のつながり：企業など組織における課題に絞って図示しました。





# 課題間のつながり：若者・子育て世代における課題に絞って図示しました。



因果関係分析：企業など組織における課題を構造的に図示しました。

### 表層的な問題（現象）

## 女性の参画機会の不足とモチベーションの低下

女性管理職  
比率の低さ

団員・職員  
不足

活動機会  
の制限

「女性活躍」  
への違和感

個人の成果が「女  
性全体」に帰属

メンタルヘル  
スの課題性

地域活動におけ  
る男女の偏り

シングルマザー  
への古い価値観

### 中間的な課題（構造・環境）

## 組織文化と制度のギャップ

組織内の過剰  
な配慮と機会  
の制限

「女性活  
躍」という  
言葉の先行

ロールモデ  
ルの不在

ハラスメント意  
識の「形式化」

組織のトップダウ  
ン型意思決定

地域コミュニ  
ティの閉鎖性

女性登用にお  
ける部署間の  
温度差

評価制度の  
不透明性

### 根本原因

## 根深く存在する性別役割分担意識と旧来の価値観

年配層の  
固定観念

男性優位の  
社会構造

無意識の偏見  
(アンコンシャス  
・バイアス)

女性自身の  
「責任回避」傾向

ライフイベントへ  
の配慮不足

キャリアパス  
の不明確さ

因果関係分析：家庭、社会環境など日常生活における課題を構造的に図示しました。

表層的な問題（現象）

若年女性の「息苦しさ」と流出

家庭・地域における男女間の負担の偏り

地域コミュニティの維持困難と孤立（移住者、生活困窮者、DVや子どもの危機）

中間的な課題（構造・環境）

女性の社会参画・キャリア形成を阻む構造

地域活動の担い手不足と世代間ギャップ

生活インフラ・サポート体制の課題

根本原因

伝統的な性別役割分担意識の定着

閉鎖的・同質性の高い地域コミュニティ

都会との情報・機会格差

因果関係分析：若者・子育て世代における課題を構造的に図示しました。

## 【若者の都市部への流出】

### 表層的な問題（現象）

都会に比べて  
交通の便が悪い

都会に比べて  
学びの機会が少ない

### 中間的な課題（構造・環境）

地域におけるエンターテインメントや多様な商業施設不足

公共交通網の脆弱性

進学先の選択肢の限定性

### 根本原因

都市部と比較した真庭の規模による構造的なサービス・機会の不足

人口減少・高齢化による公共交通網の維持困難

地域全体としての若者のニーズへの対応力の不足

因果関係分析：若者・子育て世代における課題を構造的に図示しました。

## 【男女の性差認識と教育】

### 表層的な問題（現象）

大人になってからの男性の女性への過剰な配慮

学力における男女差の統計は基本的にとられておらず、現場で特に意識されることもない

### 中間的な課題（構造・環境）

性差に関する体系的な教育機会の不足

教育現場における男女差に関する意識の希薄さ

発達段階に応じた性教育の難しさ

### 根本原因

性差への認識の実態と男女共同参画社会への移行期における男女平等意識に対する社会の変化とのギャップ

性教育に対する社会全体のコンセンサス不足

因果関係分析：若者・子育て世代における課題を構造的に図示しました。

## 【子育てと仕事の両立、家族のサポート】

### 表層的な問題（現象）

育休明けの仕事と子育ての両立に不安といったメンタルヘルスの高い課題性

両親の協力が子育てに不可欠

### 中間的な課題（構造・環境）

育児と仕事の両立を支える社会制度や職場の理解不足

地域における多様な子育て支援サービスの不足

### 根本原因

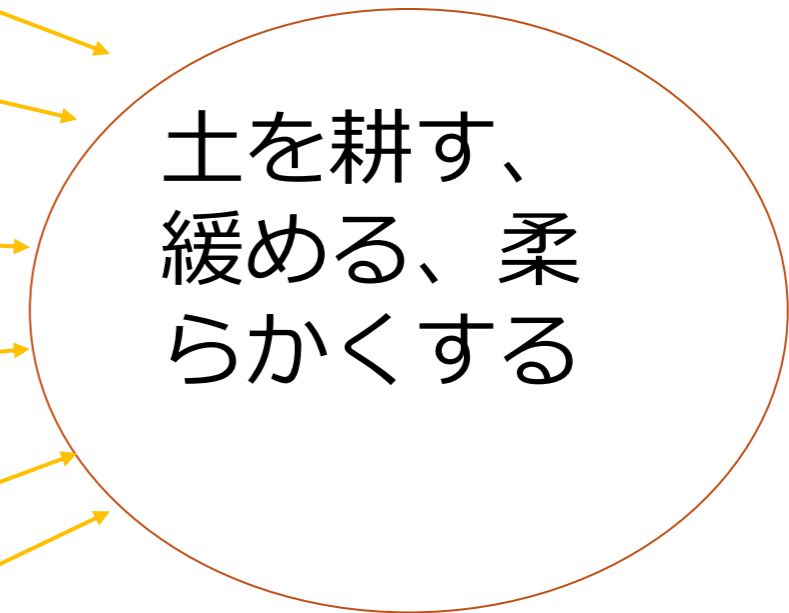
伝統的な性別役割分担意識の根強さ

子育て支援制度の不十分さや周知不足

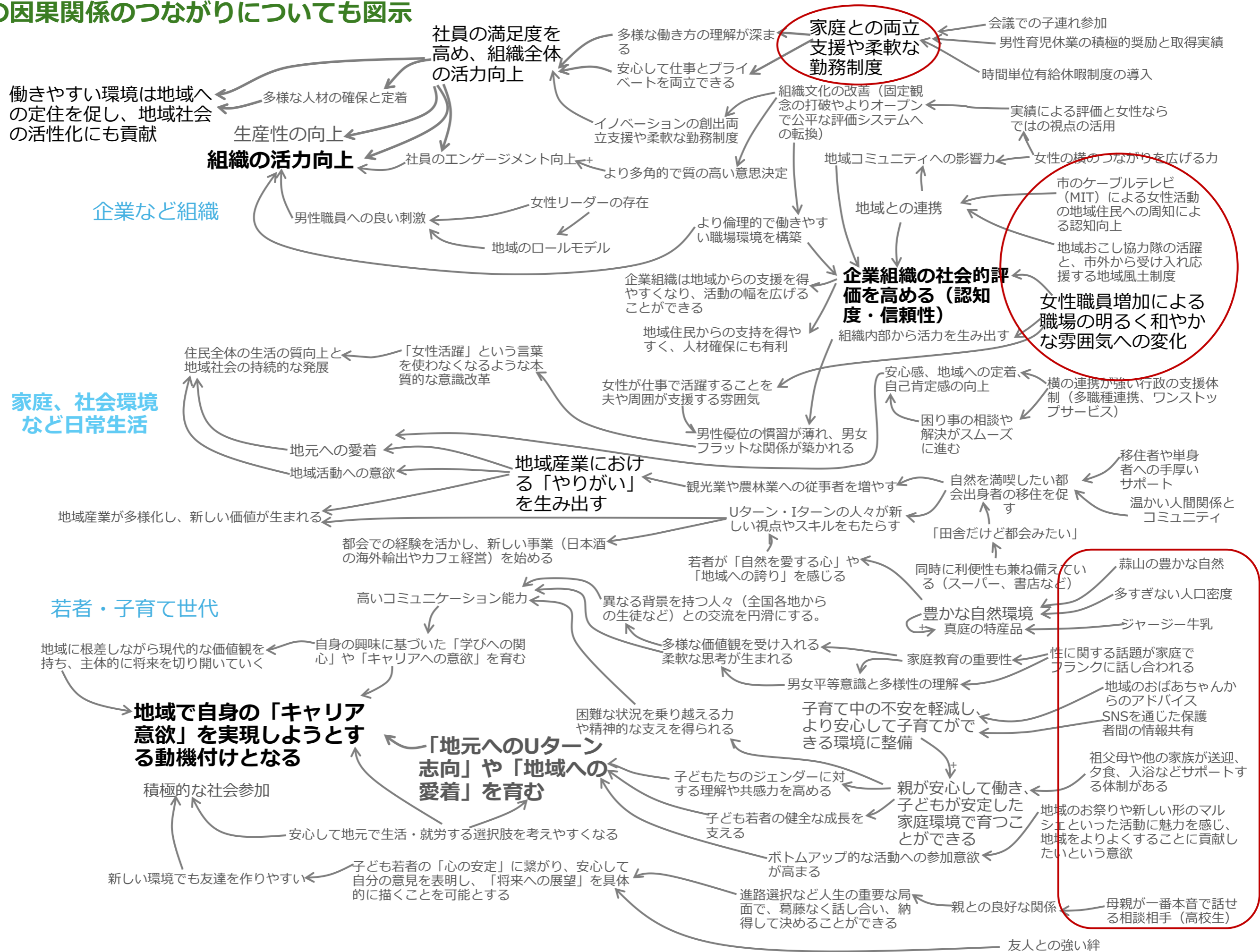
インタビューを通して、女性が組織において登用されるメリットも分かりました。  
⇒「土の栄養＝固まった土を耕す、緩める、柔らかくするもの」

女性登用について、インタビューでは以下のメリットがあげられました。

- 多様な視点とアイデアの導入につながる
- 職場の雰囲気改善と活性化が促進される
- 地域住民や顧客との関係性強化
- 組織体制の柔軟化と働き方改革の推進
- 組織内外からの評価向上とモチベーション向上
- 物理的な制約への対応と工夫がなされる



インタビューからは、真庭の魅力、活力も語られました。その因果関係のつながりについても図示しました。



## ★目指す姿

インタビューでは、真庭の生活や自身の現状について、10点満点で点数づけをしていただき、その点数と満点10点に至る改善策を伺いました。その内容から、真庭のめざす姿（かぶ）を分析しました。

（結果）

真庭市は、多様な価値観を認め合い、誰もが自分らしく輝ける**「共創と尊重のまち」**を目指す。

個々人の目指す姿（かぶ）：

真庭市に暮らす人々が、日々の生活の中で**「やりたいことができ」「笑顔で暮らせ」「仕事にやりがいを感じ」「困った時に助け合える」**安心で豊かな未来

真庭市の男女共同参画活動を主とする団体は、30年前は、女性が家庭の外へ出ていくことを目標として活動されていたとのこと、しかし、現在の女性は、仕事や社会活動での個人としての生きがいを求めており、男女の性差は理解しつつも、個々人、多様性を重視した啓発の場、機会が重視されるようになっていくことがインタビューから分かりました。そこで、真庭市の女性活躍を、単に職業人として活躍することと捉えるのでよいのかなど、あらためて真庭市における「女性活躍」の言葉についてどのように思うか、感じるかをインタビューでは尋ねました。その結果、「女性活躍」の言い換えや再定義が必要であることが分かりました。

# 男女共同参画社会の男性への影響と意識改革

伝統的な男女役割分担の価値観は、男性の生きづらさやプレッシャーも生んでいます。男女フラットな意識改革は男性自身の旧来の重圧から解放します。

図の 〇〇 : 影響と課題 〇〇 : 意識改革

新しいフラットな価値観・環境

意識改革は女性のためだけでなく、男性自身を旧来の重圧から解放し、多様な生き方を許容するためにも必要不可欠

主夫やスローライフの選択も可能とする社会的理解

社会的地位が男女平等になった時の夫婦間、組織の理解

従来女性の職種とされていた仕事（保育士、看護師等）を担うことへの平等意識の醸成

若い世代の男性のフラットな男女に対する関係意識

男性への良い刺激と環境の変化

男性の主体的な育児の定着

「家事」の「手伝う」から主体者へ

家事（家の用事＝作業）⇒加事（家族の営みに加わる）⇒働事（家族で幸せを感じる、自分の価値を見出す）に意識を変化

「過度な配慮」から「対等なパートナー」へ

男性自身が持つ「無意識の偏見」に気づき、女性を「守る対象」から「共に働く対等なパートナー」として再認識する意識改革が強く求められる

Positive (前向き)

50代の男性と30代以下の男性とで男女関係の捉え方が異なることから世代間の衝突

男女平等の新しい環境に対する男性の戸惑い

男性側は「女性活躍のために頑張っている」と思っているが、女性側はそう感じていないという認識のズレがある

過剰な配慮  
・「性差をしらなさすぎる」ことからの配慮  
・身体的・社会的な違いを正しく理解していない

多くの男性は「どう接すべきか」という戸惑いや「男性が優位であるべき」という潜在的な価値化の間で揺れている

年配世代の男女の役割分担に関する固定観念の意識改革

伝統的な男性優位の価値観

男性自身への負の影響と「生きづらさ」

地域活動の負担

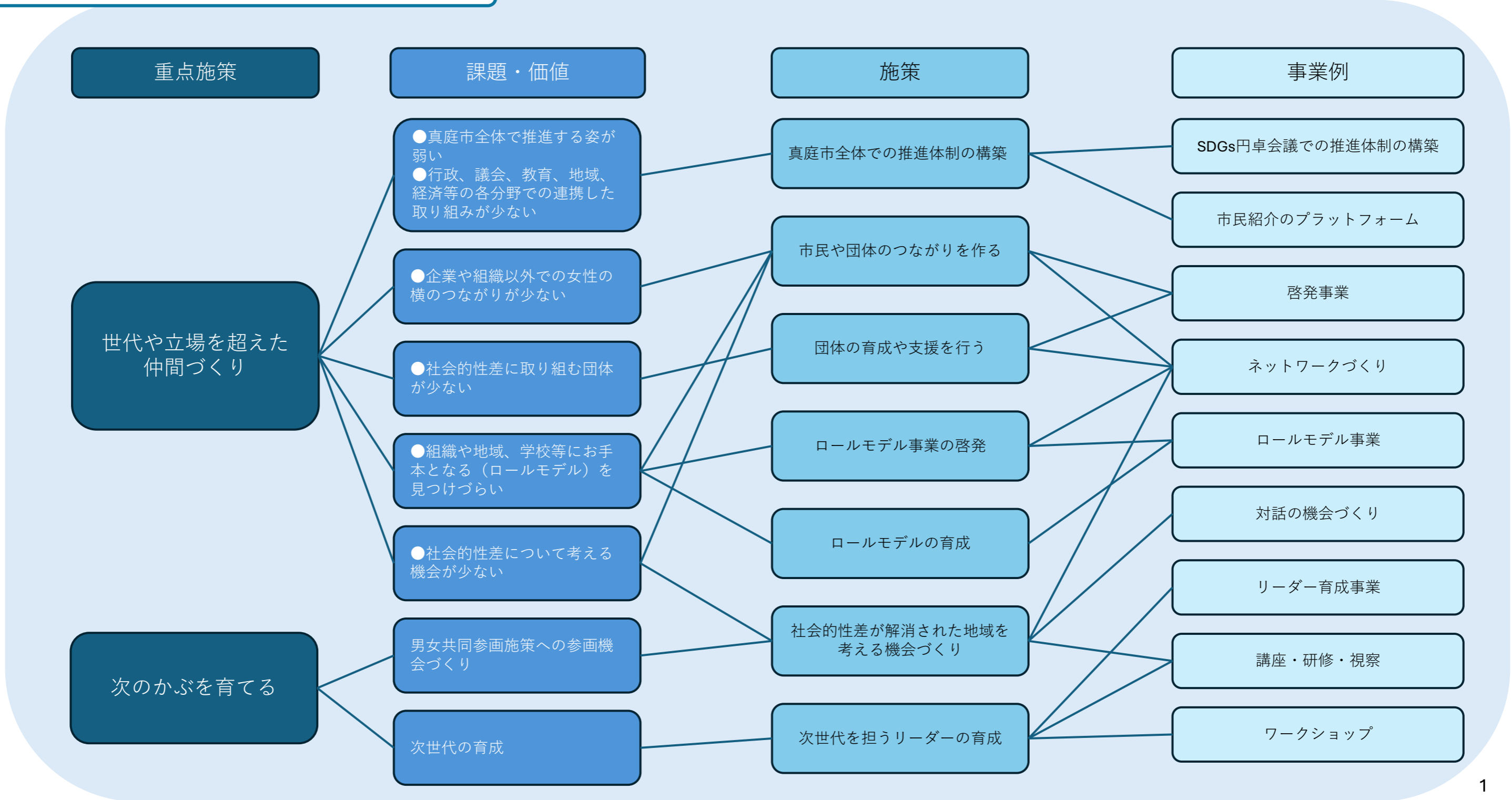
「稼ぐ」プレッシャーと拘束

「跡取りの呪縛」

Negative (後ろ向き)

# 重点施策 整理表

【仲間】 人・つながり・協働のしくみ



# 【土】意識・文化・考え・慣習



# 【石】社会の制度・構造・環境

## 重点施策

## 課題・価値

## 施策

## 事業例

土の石をなくす

● 家庭内の暴力(DV)

● 意思決定の場への性差の偏り

● キャリア形成の不明確さ

● 子育て・介護、地域と家庭の両立の困難さ

● 職種や働き方の性差による偏り

配偶者等からの暴力の根絶

積極的な性差の偏りの是正

賃金格差や採用格差などの社会構造化している社会的格差の解消

社会構造の見える化

啓発事業

ネットワークづくり

ロールモデル事業

講座・研修・視察

マネジメント研修

相談支援事業

キャリア形成支援

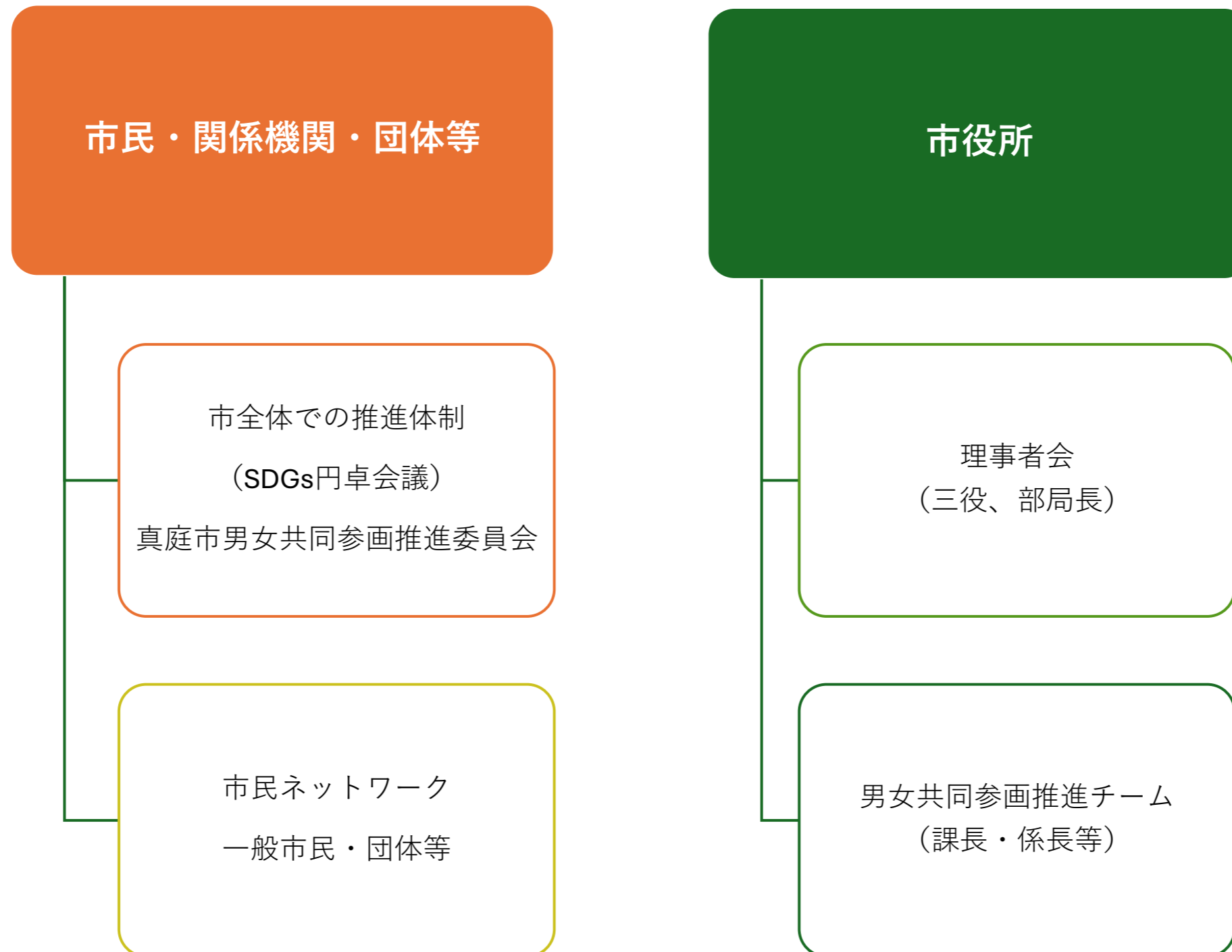
団体・事業所認定

社会構造調査事業

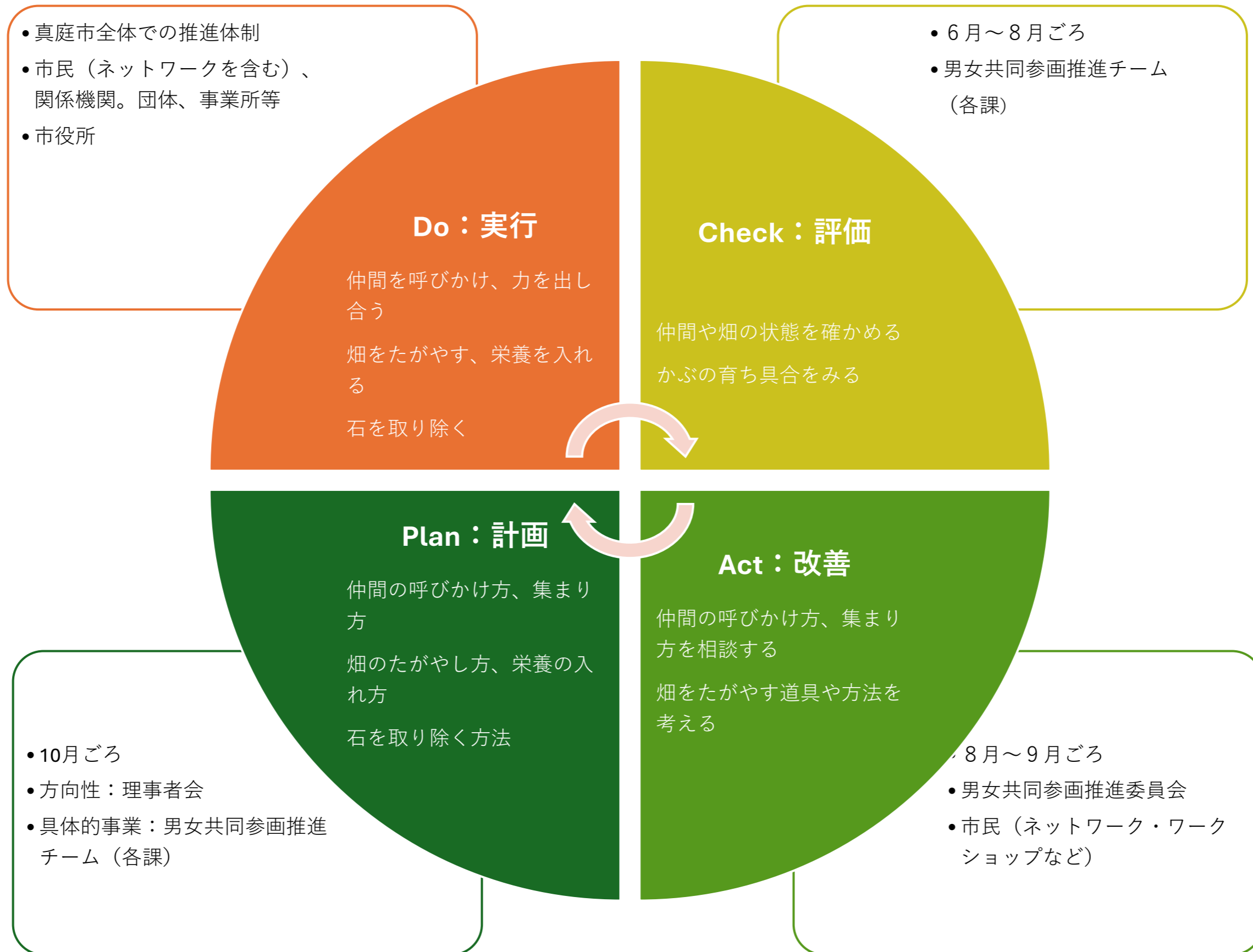
# 推進体制

議論全体から、単一の主体や部門だけで地域課題を解決することは困難であり、行政内部の部署間連携、行政と地域住民、民間企業、NPO、さらには多世代の人々との重層的かつ柔軟な連携が強く求められていることが浮き彫りになりました。特に、課題ごとに最適なパートナーを見つけ出し、それぞれの強みを活かしながら、具体的な仕組みやネットワークを構築していく視点が重要であると言えます。

## 推進体制図（案）



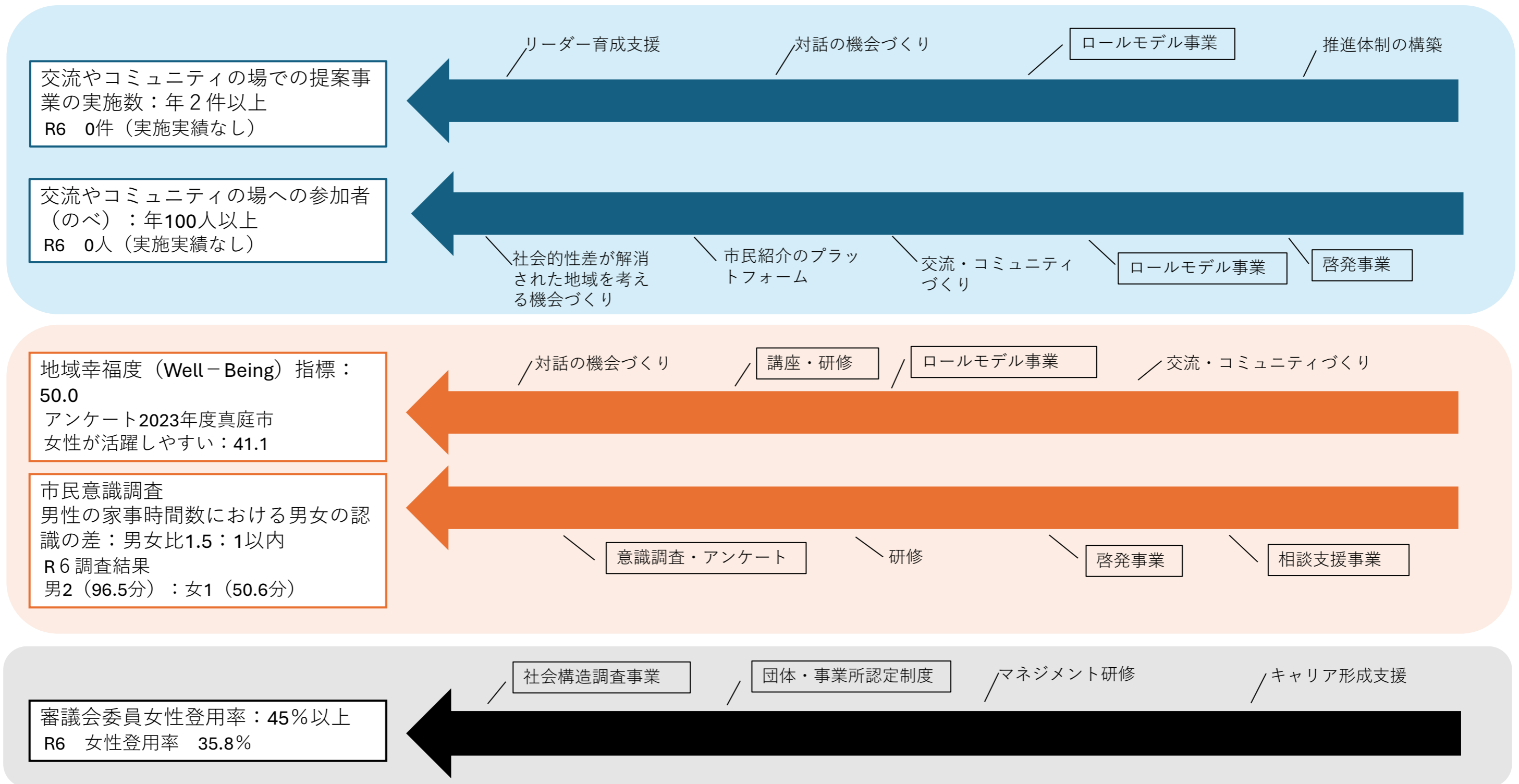
## CAPDサイクル図 (案)



# 成果指標とその指標を用いて評価する施策と事業

文字のみ = 施策

□ = 事業



## 成果指標（補足説明）

交流やコミュニティの場での提案事業の実施数：年2件以上  
R6 0件（実施実績なし）



参加者や賛同者から得られた意見・情報をもとにより有意な事業を実施する

交流やコミュニティの場への参加者（のべ）：年100人以上  
R6 0人（実施実績なし）



啓発イベント・ワークショップ・シンポジウム等の参加者

地域幸福度（Well-Being）指標：  
50.0  
アンケート2023年度真庭市  
女性が活躍しやすい地域：41.1



地域幸福度（Well-Being）指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化する指標。2023年度の主観データ（自治体が集めたアンケートデータ、回答者261名）によると主観指標（個人の満足感や幸福感の自己評価）で「女性が活躍しやすい地域」が41.1（出典：デジタル庁 地域幸福度Well-Being指標）

市民意識調査  
男性の家事時間数における男女の認識の差：男女比1.5：1以内  
R6 調査結果  
男2（96.5分）：女1（50.6分）



R6年市民意識調査において、問6「あなたの家庭で男性が家事（炊事・洗濯・育児・介護）に当てている時間は1日あたりどの程度ですか」に対し、30・40代男性の認識する平均家事時間が96.5分、30・40代女性から見た男性の平均家事時間が50.6分

審議会委員女性登用率：45%以上  
R6 女性登用率 35.8%



委員会や審議会などでの女性比率

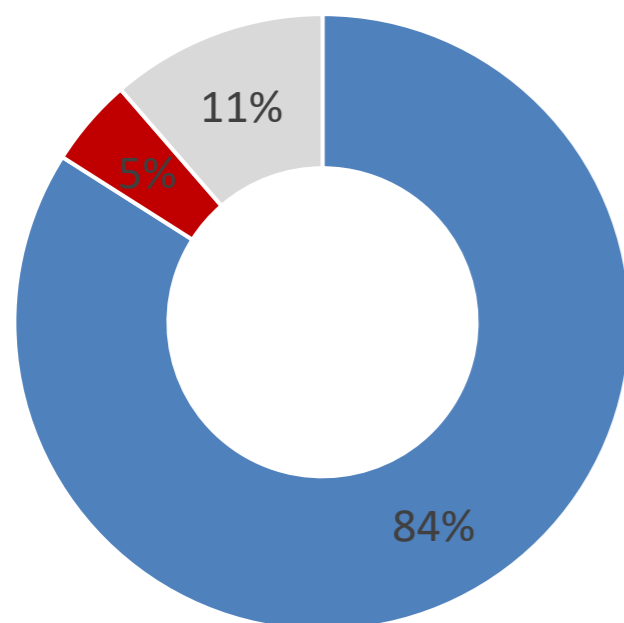
# 令和6年度市民意識調査 集計結果

## 2 調査の項目

- (1) 問1 基本情報（回答者自身について）
- (2) 問2～問6 男女平等について
- (3) 問7～問9 女性の参画について
- (4) 問10～問14 雇用・就労について
- (5) 問15～問18 家事・子育て・介護への参加について
- (6) 問19～問20 社会参加について
- (7) 問21～問22 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) 問23～問25 性の多様性について
- (9) 問26～問27 災害時における男女共同参画の必要性について
- (10) 問28～問33 ドメスティック・バイオレンス（DV）等について
- (11) 問34～問36 行政の役割について

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。

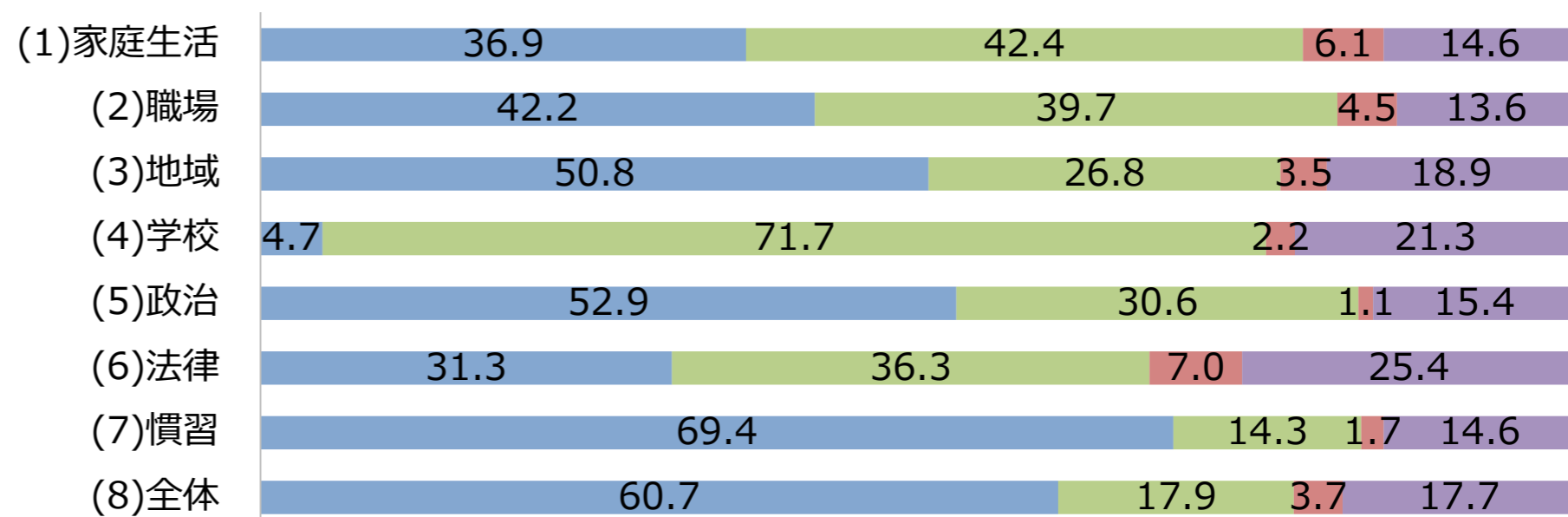
■ 同感しない ■ 同感する ■ わからない



問4 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。

### 男女の地位の平等 (%)

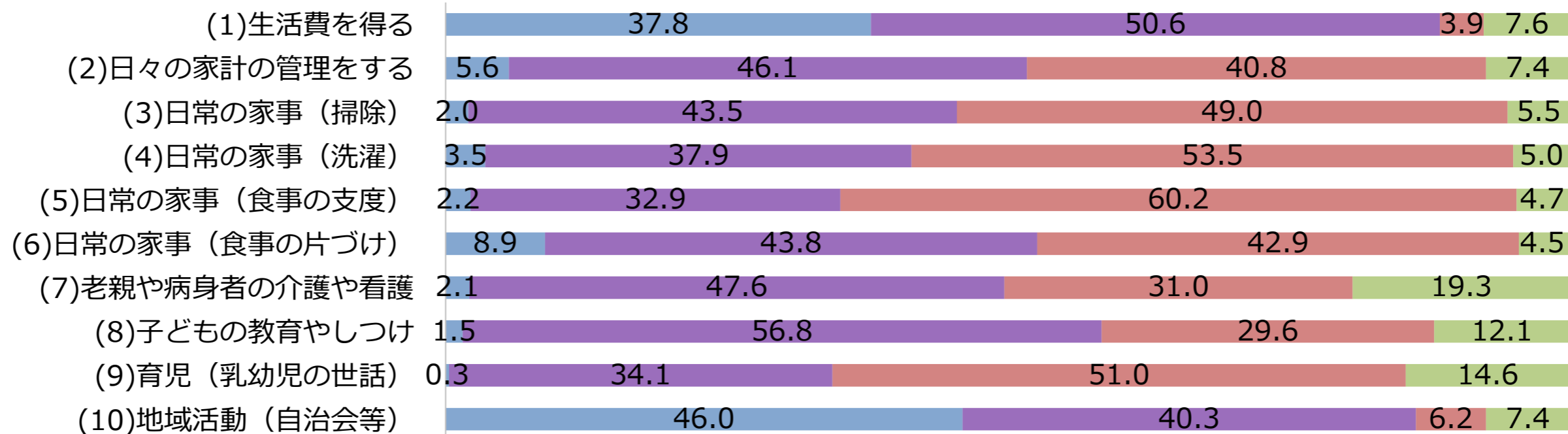
■ 男性優遇 ■ 平等 ■ 女性優遇 ■ わからない



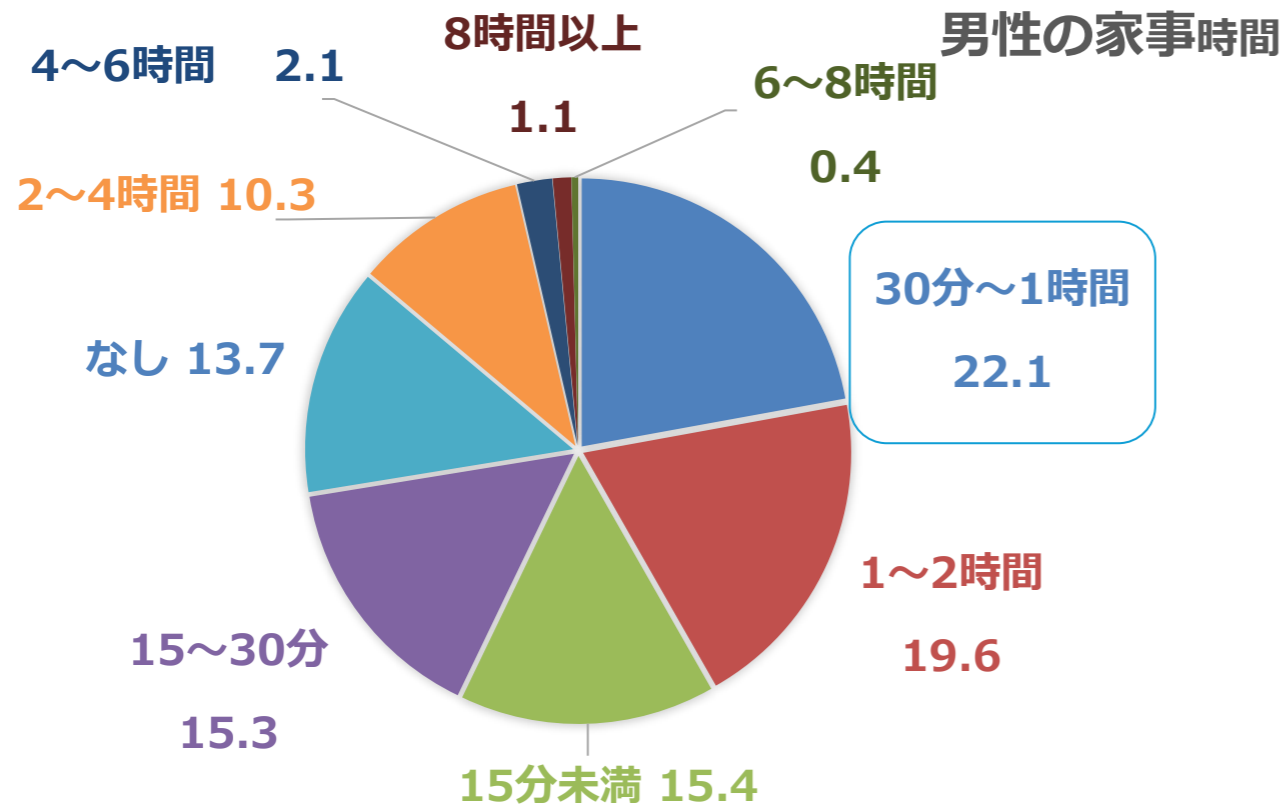
問5 家庭内における役割について、だれの役割だとお考えですか。

### 家庭内における役割 (%)

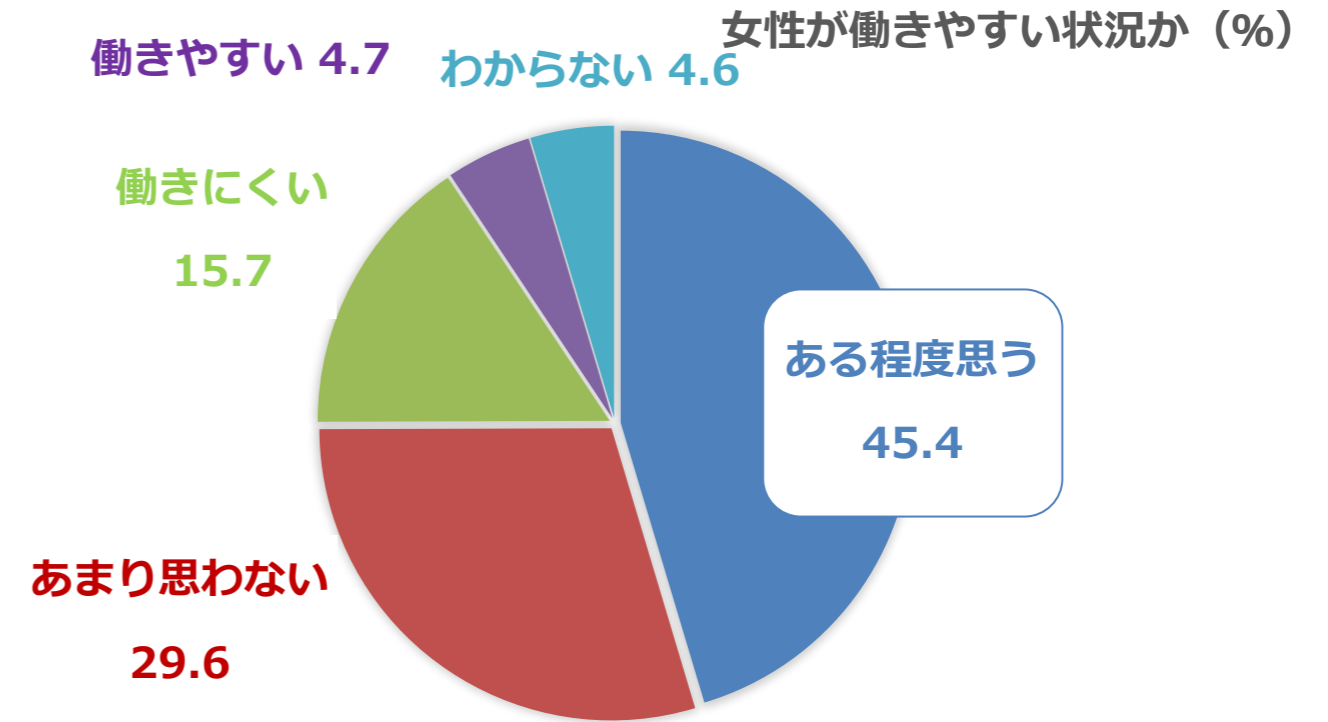
■ 主として男性 ■ 両方同じ程度 ■ 主として女性 ■ いずれにも該当しない



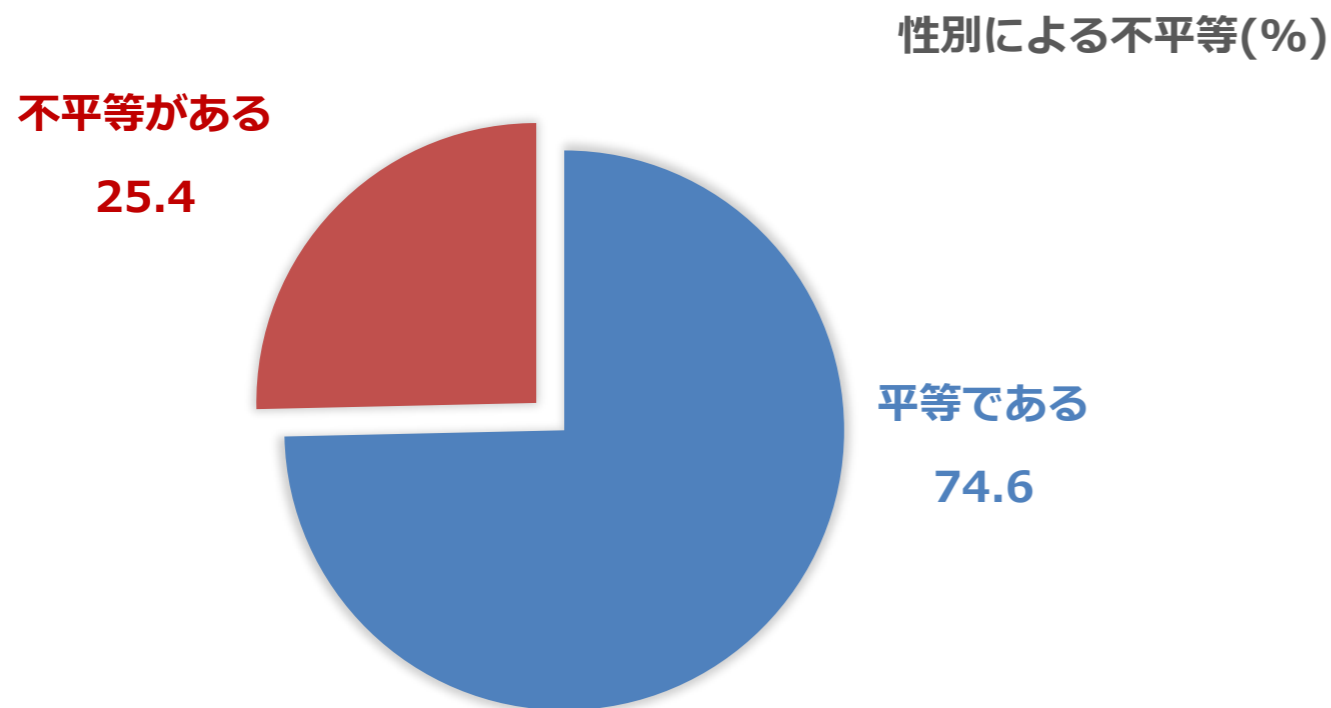
問6 あなたの家庭で男性が家事（炊事・洗濯・育児・介護）に当てている時間は1日あたりどの程度ですか。



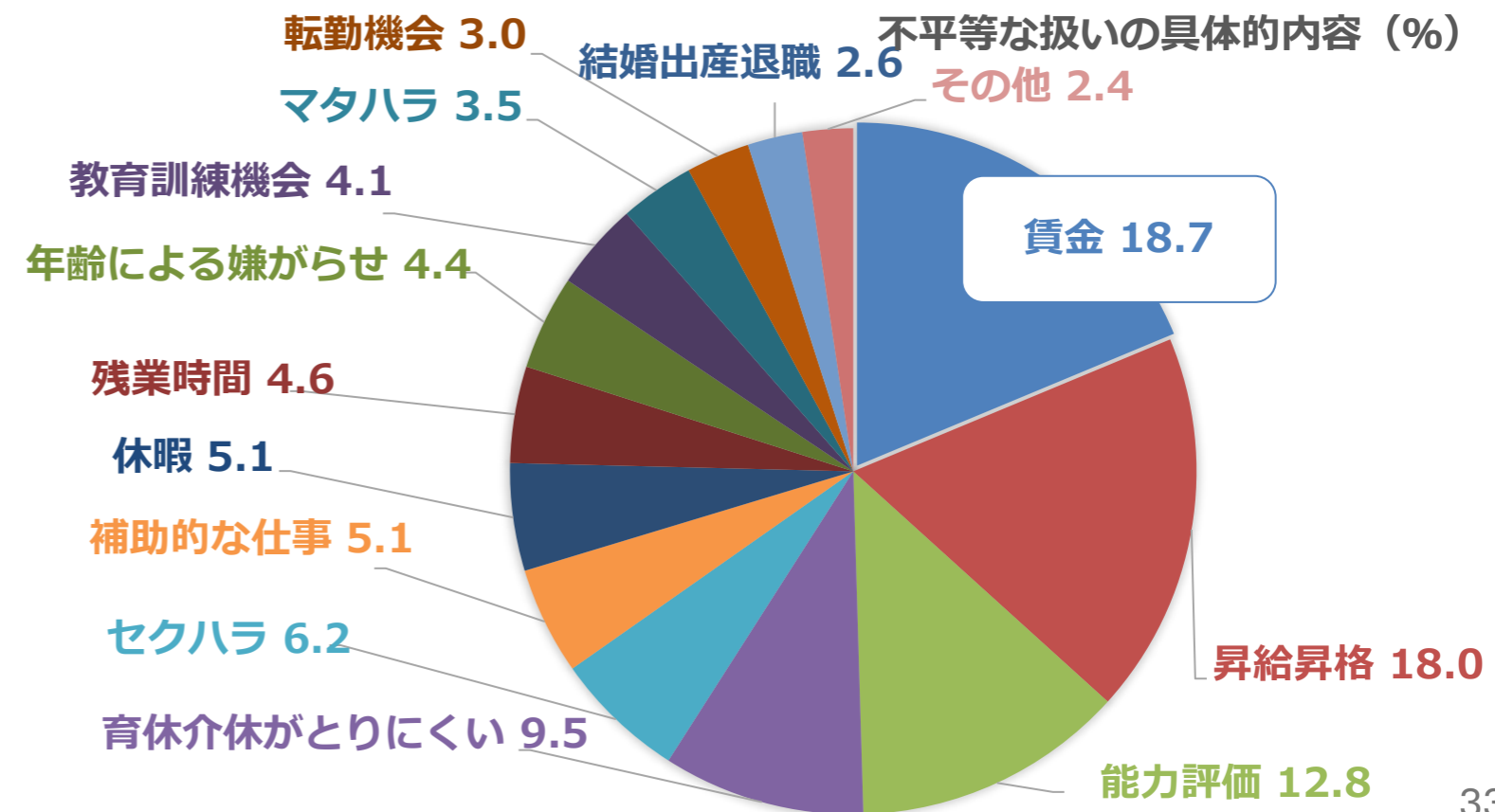
問11 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。



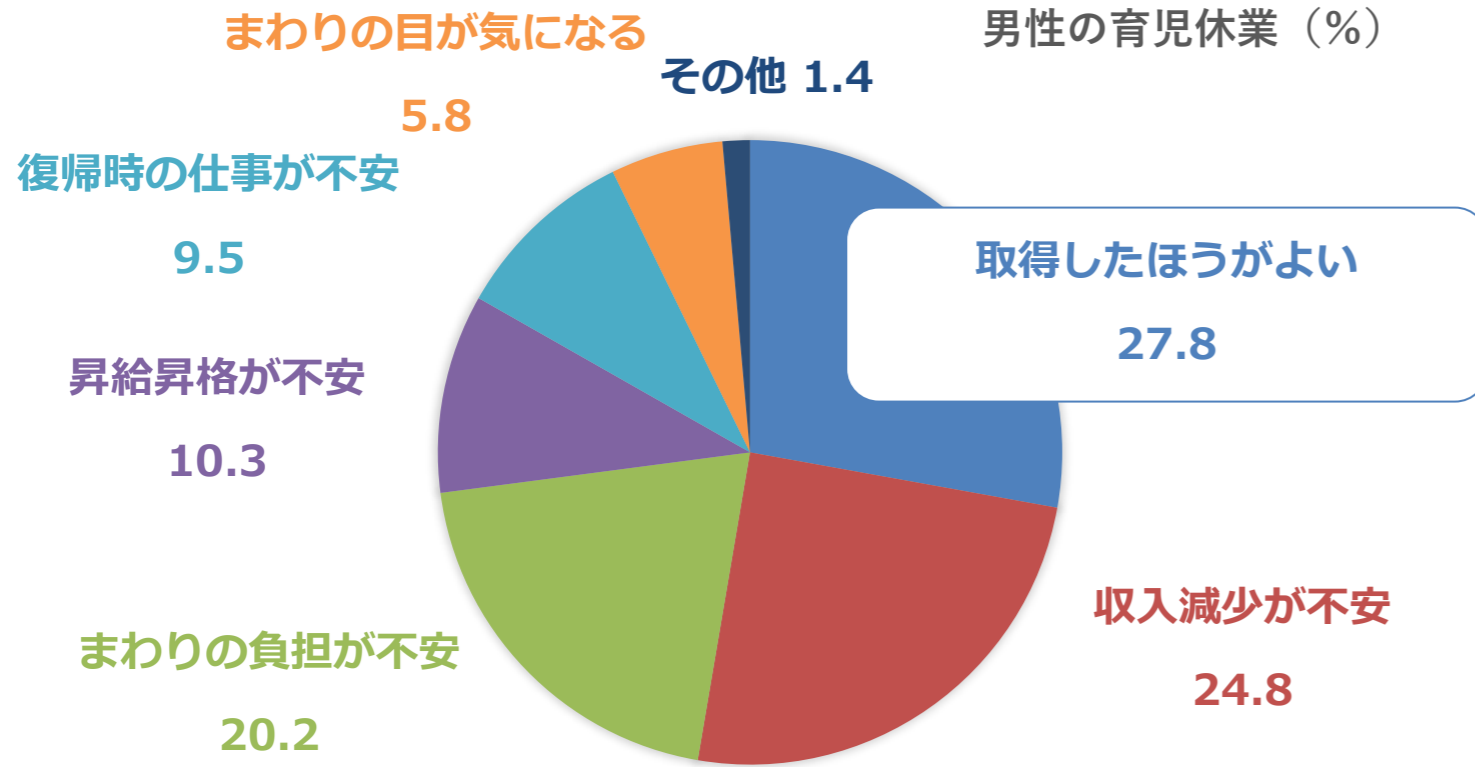
問13 【仕事をしている方にお尋ねします】今の職場では、性別により、不平等があると思いますか。



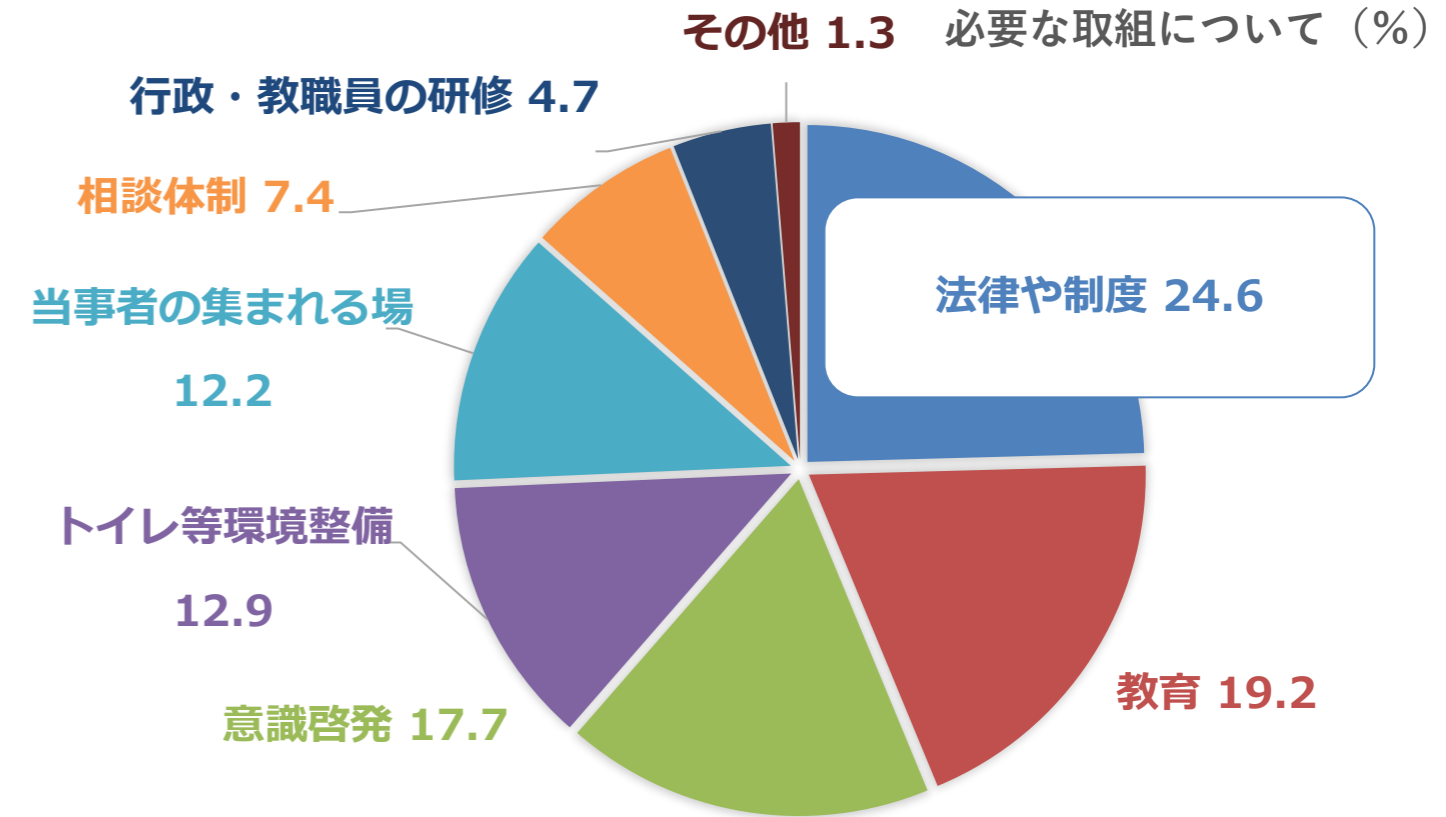
問14 性別による不平等な扱いの具体的内容は、どのようなことですか (○印はいくつでも)



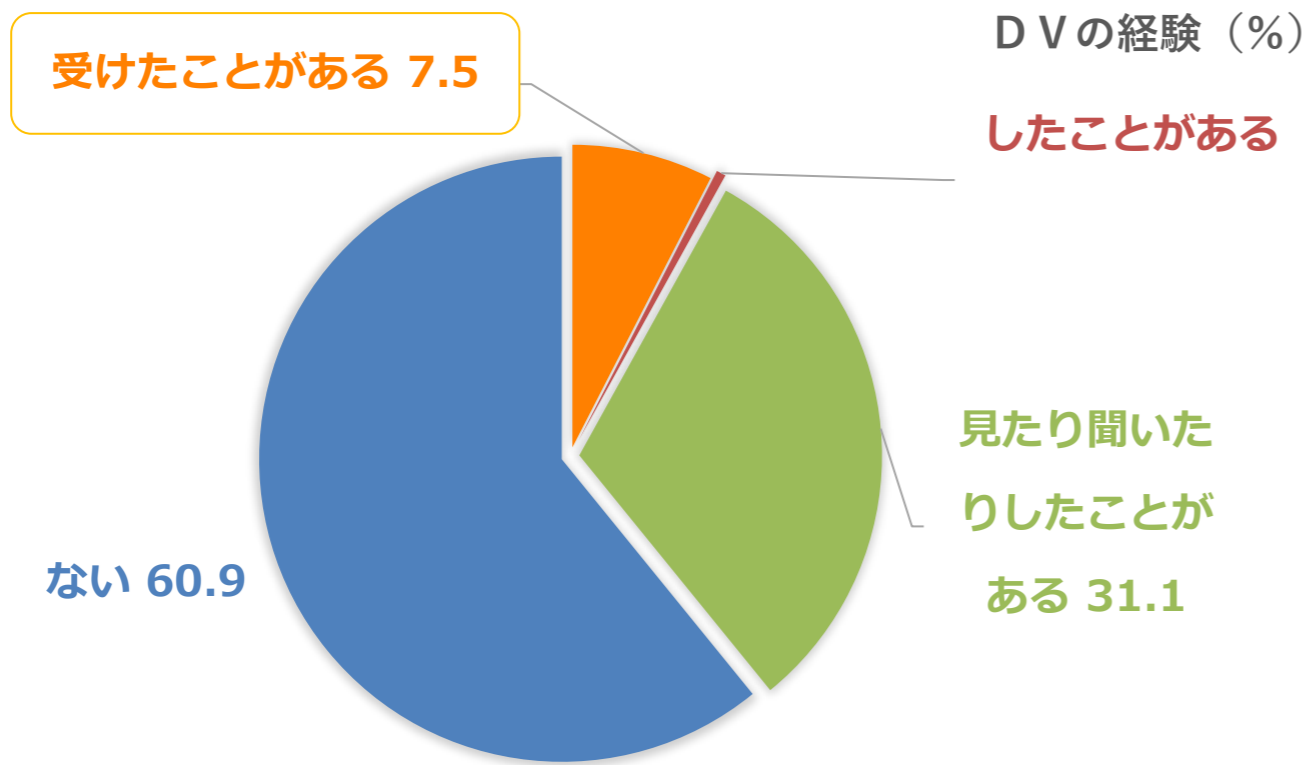
問18 男性が育児休業を取ることについてどのように感じられますか。  
(○印は2つまで)



問24 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から3つ選んでください。(○印は3つ)



問28 ドメスティック・バイオレンス (DV) が社会的な問題となっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか (ありましたか)。



問36 政策・方針決定する場に女性の参画が少ない理由についてどう思いますか。(○印はいくつでも)

